

(別紙様式3)

平成31年 3月27日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 山梨県甲府市丸の内一丁目6-1  
管理機関名 山梨県教育委員会  
代表者名 教育長 市川 満 印

平成30年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

平成26年 4月 1日(契約締結日)～平成31年 3月31日

#### 2 指定校名

学校名 山梨県立甲府第一高等学校

学校長名 堀 井 昭

#### 3 研究開発名 テーマ 「主体的に課題を解決できる山梨発！グローバルリーダーの育成」

#### 4 研究開発概要

後継者不足や人口減少など、本県の産業の活性化を阻害する社会的な課題を手がかりに、特色的な産業である「地場産業」「伝統工芸」「ワイン産業」「果樹産業」及び「観光産業」などの現状や、諸外国での取り組みを調査・研究し、それぞれの課題の解決を目指したプランニングを行い、その成果を各方面に提案する。これらの取り組みを通して、グローバルな視野を養うとともに、「論理的な思考力・判断力」や「実践的なコミュニケーション能力」の育成を目指す。

#### 平成30年度の研究開発実施計画

平成28年度から英語科が探究科に改編され、探究科2クラスがSGHの活動を行っている。それにより、これまでの探究活動が一層充実し、論理的思考力や課題解決力の育成がこれまで以上に期待できる。また、地域の社会的な課題の解決に焦点をあて調査・研究し、それを発表するというSGHとしての一連の取り組みにより、我々が目指す思考力・判断力・表現力の育成という目標がより一層明確になってきた。

英語力の向上については、英語力向上ワークショップやイングリッシュセミナー、全て英語による講演会（「サイエンスダイアログ」）の開催等充実させている。また、公開発表会の英語による実践、英文による報告書作成、海外研修における調査・研究や学校間交流での英語を活用した発表等を通して、英語によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成など、より実践的な英語力の向上を図っている。

課題解決のためのプランニングという目標の達成に向けては、さらなる調査・研究の積み上げが必要になる。また、有意義な探究活動は継続するなどして、プラン実現を目指した。

## 5 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実地調査										→		
評価委員会										→		
実践発表会							→					

### (2) 実績の説明

① 高校生留学促進事業「グローバル人材育成留学プログラム（アメリカ短期留学）」の実施。留学事業を県単独で整備し、高校生の実地調査をISSと連携して支援する。甲府第一高校から6名が参加した。【H30年度県予算実績320万円】

② 観光部（国際観光交流課、観光プロモーション課）、産業労働部（地域産業振興課）、企画県民部、農政部、広聴広報課等と連携した。

③ 平成30年6月～ 運営指導委員への説明会（個別訪問）

平成30年4月 2日 委員の委嘱

平成31年1月24日 第1回運営指導委員会及びヒアリング会

平成31年2月 8日 甲府第一高校公開研究発表大会出席

④ 学校全体でSGH事業を協力をサポートできるように、職員全体の授業時数の弾力的な運営ができるように支援した。具体的には、時間数の端数処理によって合計6時間の軽減処理を行った。

⑤ マスコミ各社と連携し、多数の新聞報道で取組の様子を報道した。

スーパーグローバルハイスクールの取り組みへの県民・企業などの理解を深めた。

⑥ 県教育委員会主催の「SGH・キャリア教育・総合的な学習の時間実践事例発表会」を本年度も実施し、県内全校の管理職を含む関係教職員出席のもとSGH指定校の事例を発表し、開発内容について共有した。

⑦ 事業の管理

運営指導委員会の設置及び運営

- ・運営指導委員会への出席及び内容や評価等への指導助言。
- ・学校が主催する成果発表会等における指導助言。

- ・生徒の課題研究への指導助言。
- ・成果の検証への指導助言。

(3) 「スーパーグローバルハイスクール事業」の発表について

発表会参加者のアンケートより

- ・グローバルパスポートの内容の充実と完成度の高さに驚いた。とても参考になった。
- ・ポスターセッションやプレゼンのポイントだけでなく、評価ルーブリックまで一目で分かるので、生徒自身が取り組みやすくなっていると思った。
- ・押しつけるのではなく、生徒との関わりの中で一緒に探究していく姿勢が素晴らしい。
- ・世界的な場で活躍できる人材の育成・・・という明確な目標のもとに組みがなされている。
- ・高校で行った研究を大学進学後も続ける生徒がいることが素晴らしい。
- ・自校の取り組みは、地域レベルのものだが、企画や指導方法で参考になった。
- ・先生方の熱心な取り組みが、生徒のアンケートに表れていたのだと思う。
- ・生徒が自分自身でアポイントを取れるなど、自主性があり、素晴らしい活動成果だと思う。
- ・生徒が名刺を持っているということにも驚いた。
- ・生徒の進学先、その後の取り組みに興味がある。
- ・指導体制と先生方の熱意がわかった。
- ・SDGs と連動させた学習、様々な学習スキルとの連動をさせながら、グローバル人材育成に取り組まれたことが意義深い。
- ・知識の定着を図る入試（ペーパー入試）の力だけでなく、何故そう考えるのか、論理的思考を探究する生徒の多様性や好奇心を広める役割を果たしていると感じる。
- ・指導体制と先生方の熱意が伝わった。指導する教師に成長を促す事業だと感じた。
- ・生徒が楽しく取り組むことが大切だと感じた。やらされ感がなく、探究していく姿勢があれば、学習では得ることがある。能力を身に付けることができると思う。
- ・一貫して学ぶ楽しさが伝わってきて、自分も高校生であったら是非やってみたいと思う。
- ・すごいことをやっているのだから、もっと外へ発信すべきだと思った。
- ・英語の発表となると、難しい英文を使わなくてはならないと考えがちだが、中学校卒業程度のレベルでも、十分に充実した発表が出来るのだと感じた。
- ・生徒と同じ方向を見ながら教師側が考えられるのが難しいと思う。教師側のやる気が大切。
- ・グローバルリーダーを目指す生徒の割合の推移は、世界情勢の影響を受けている可能性が高いが、ひるまずに挑戦を続けてもらいたい。
- ・評価については、生徒の自己評価以外の方法も必要であると感じた。
- ・グローバルパスポートは、マニュアルに近いイメージがある。昨今、マニュアルがないと動けない生徒や大人が増えているような気がする。
- ・探究課題を設定することが難しいのでは？一人の教員が何人の生徒を担当するのか？土日にかかる事も多いのでは？生徒も教員も負担が多いのではないか？

6 研究開発の実績

(1) 実施規模

	SGH 対象生徒数					計
	1年	2年	3年	H29卒	H28卒	
普通科	0	0	0	43	43	397
英語科				37	33	
探究科	80	81	80			

(2) 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（30年4月2日～31年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①学校設定科目	→											
②高大連携	→											
③企業との連携	→											
④行政との連携	→											
⑤実地調査	→											
⑥サイエンス・イアログ							→					
⑦イングリッシュセミナー									→			
⑧課題研究外	→											
⑨評価・報告書	→											

(3) 実績の説明

課題項目	実施年次	内容・成果
①各年次の概要	1年次	<b>グローバル探究Ⅰ（1年次・2単位）</b> うち総合的な学習の時間（1単位） 社会課題に対する関心と深い教養や課題解決能力等を身につけるため、本県における社会的な課題を手がかりに、アウトバウンド、インバウンド双方の視点も取り入れ、本県や海外の地場産業や伝統工芸品等の現状や課題を比較・調査・研究することを通して、課題設定、調査・研究、提案という一連の流れを学んだ。
	2年次	<b>グローバル探究Ⅱ（2年次・2単位）</b> うち総合的な学習の時間（1単位） 1年次の取り組みを基盤に、グループごとに、それぞれの社会課題について、調査・研究を深め、グローバルな視点をもったプランニングを行い、その成果を公開発表会や海外研修等において発表した。
	3年次	<b>グローバル探究Ⅲ（3年次・1単位）</b> 総合的な学習の時間（1単位） 2年次の取り組みを基として、グループごとに、それぞれの社会課題について、調査・研究を一層深め、その成果を論文にまとめるとともに、グローバルな視点を持ったプランニングを行い、その成果を行政機関・企業等に提案・提言した。
②高大連携	1年次 2年次	各テーマに応じた関連講座を山梨大学・山梨県立大学で聴講し、また、出前講座を受講するとともに、本校の取り組みに対する指導助言を受け

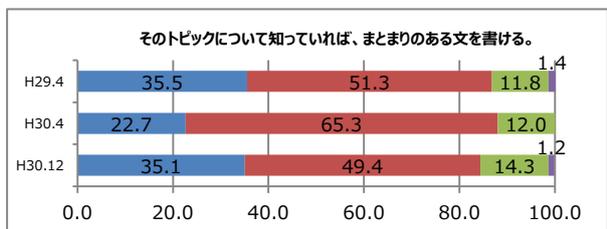
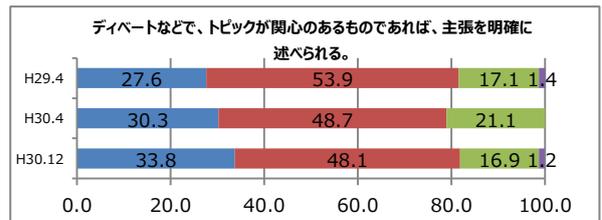
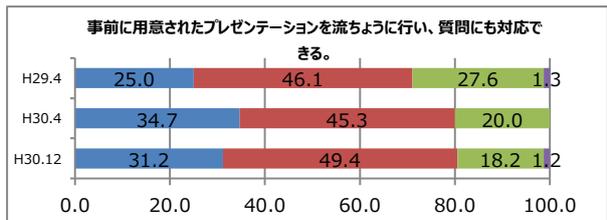
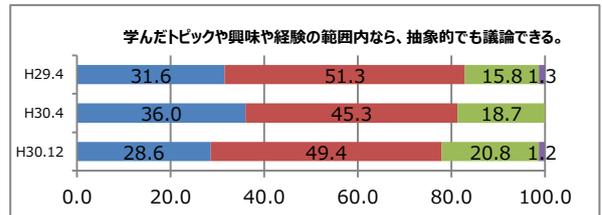
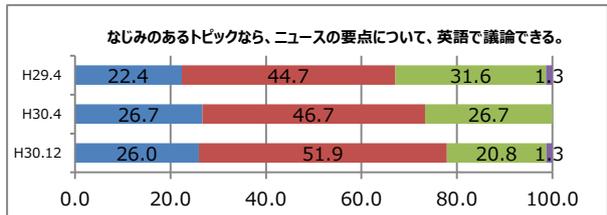
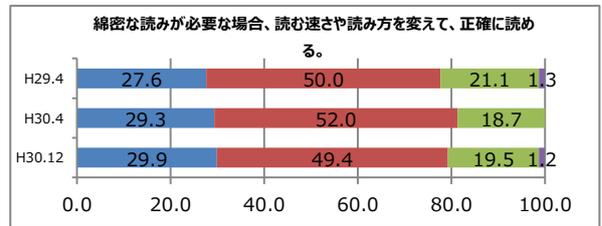
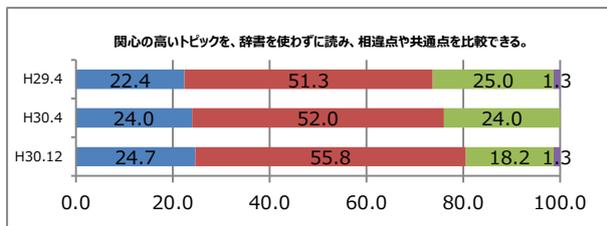
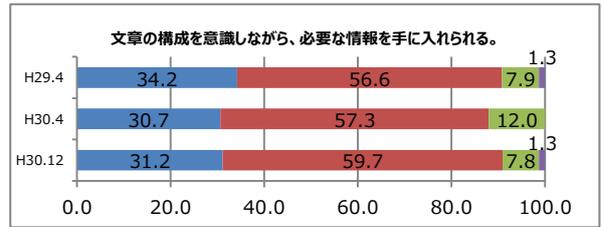
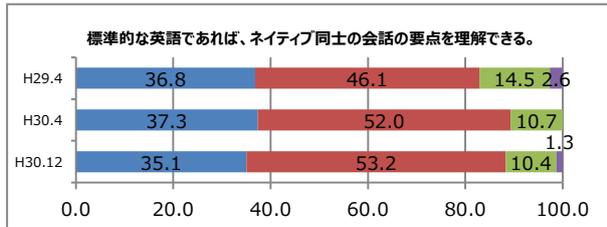
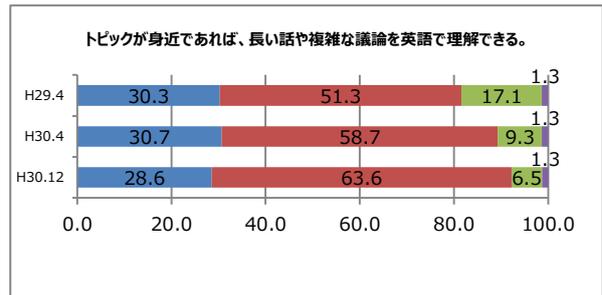
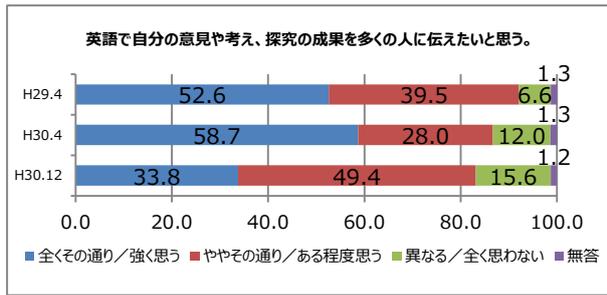
		た。
③企業との連携	1年次 2年次 3年次	印傳屋、中央葡萄酒、山梨銘醸等、世界展開を実現、あるいは目指している県内の企業経営者からの講義を受講するとともに、指導助言を受け、企業見学を通して調査・研究に活かした。また、3年次には、企業への提案・提言を行った。
④行政との連携	1年次 2年次 3年次	県教育委員会や山梨県産業労働部、山梨県観光部等と常に連携をもち、講義を受講するとともに、SGHの運営について指導助言を受けた。また、県教育委員会を通じて農林水産省等との連携を図り、現実にある社会課題を提供していただいた。さらに、3年次には行政機関への提案・提言を行った。
⑤実地調査	1年次 2年次	県の内外及び国外での調査・研究を通して、研究の基礎となる地場産業や伝統工芸品等に関する知見を得るとともに、現地における研究成果の発表を通して、国際的な交渉を行う際に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を図った。 〈1年次〉県内企業見学等 県外実地調査（長野県 etc.）国外実地調査（オーストラリア） 〈2年次〉国外実地調査（アメリカ）・（フィリピン、セブ島）
⑥サイエンスダイアログ	1年次 2年次	外国人研究者による実践的な講座を英語で聴講することで、SGHの活動に必要な知識を得るとともに、プレゼンテーションの向上を図った。 平成29年度はサイエンスダイアログにかわり、「EUがあなたの学校にやってくる」を実施した。
⑦イングリッシュセミナー	1年次	県内のALT約10名の協力を得て、英語だけで過ごす機会を設定した。SGHについての意見交換等を行うことを通して、英語を用いて自分が考えたことを適切に表現するなど、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。
⑧課題研究以外の取り組み全般	1年次 2年次 3年次	各教科との連携（教科ゼミ）、発表会や対外的な発信活動、主体的・協働的な組織の構築等により、諸活動の基礎となる思考力・判断力・表現力の向上を図るとともに、諸活動のための基礎作りを行った。また、グローバルリーダー育成セミナーなどの各種セミナーやワークショップを通して、グローバルリーダーとしての基本を学んだ。
⑨評価及び報告書の作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の変容については、国内実地調査や海外実地調査後にアンケートを実施し、また、年度末の評価ルーブリックやアンケートを用いた評価を行うことにより検証した。</li> <li>・課題解決能力の把握に当たっては、一つの例として、次に示すような細分化を行い、その到達度を確認した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 課題が何なのかを把握できる。</li> <li>B. 課題の原因について分析できる。</li> <li>C. 解決策について考察できる。</li> <li>D. 考察した解決策をまとめ、最終的な報告として英語で表現できる。</li> </ul> </li> <li>・1年間の取り組みの内容、およびその評価を報告書にまとめ、関係機関</li> </ul>

		に配布した。 ・さらに SGH5 年間の取り組み、評価および生徒への効果についてまとめた。
--	--	--

次に SGH 最終年度に卒業する生徒に対し「英語を活用する能力」が SGH の活動によってどのように変化したかアンケートを実施した結果を示す。

SGH の活動が生徒の「英語を活用する能力」で成果として現れていることがわかる。また、英語検定での合格率の向上や高校入学時に準 2 級以上を取得して高校在学中に更に上位級を取得したいという希望を持つ生徒数が増加しており、普通科の生徒へも影響力が大きかった。本校における高校卒業時に英検準 1 級取得者は、平成 29 年卒では 5 名、平成 30 年卒では 10 名と倍増している。

## 英語を活用する能力

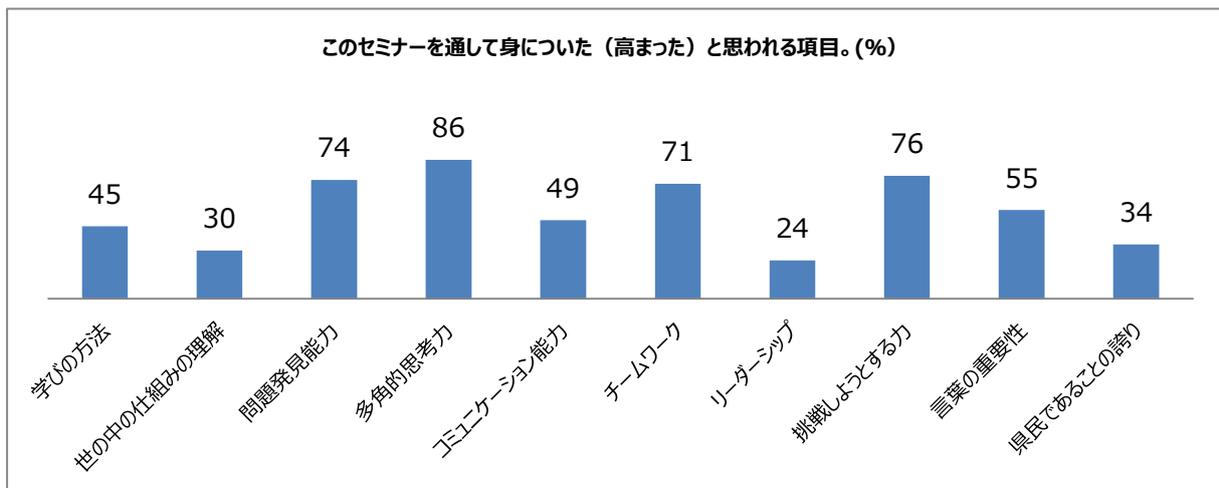
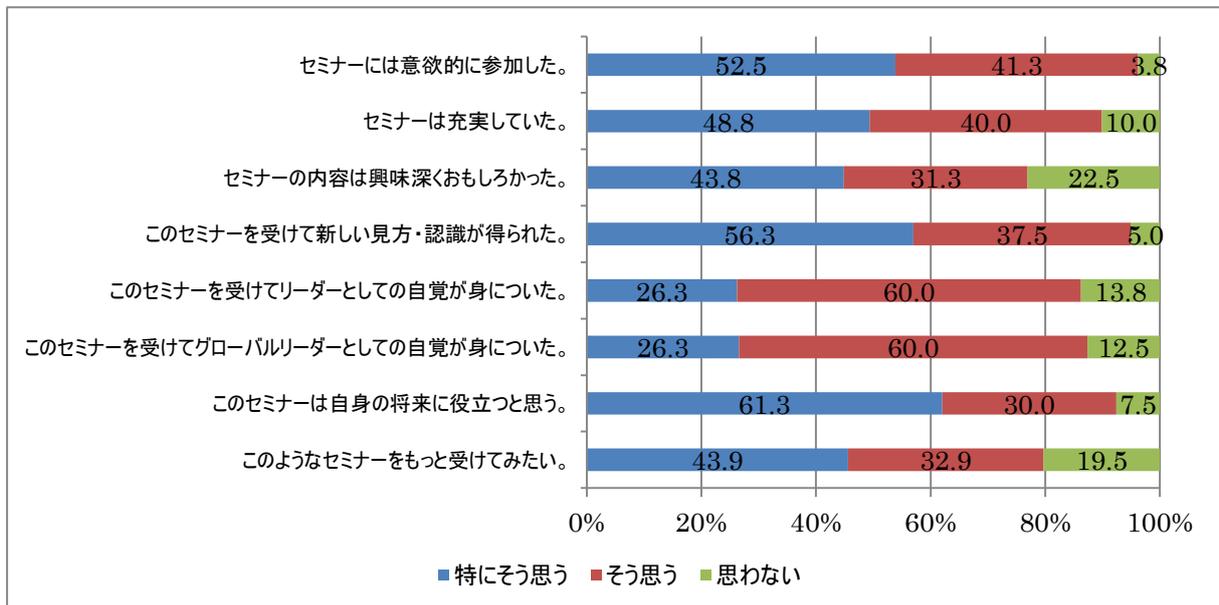




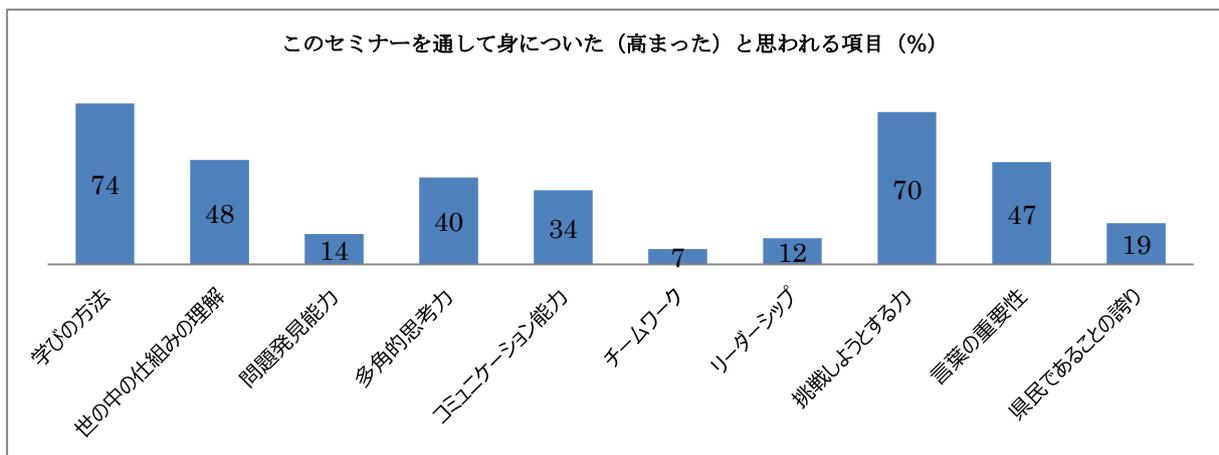
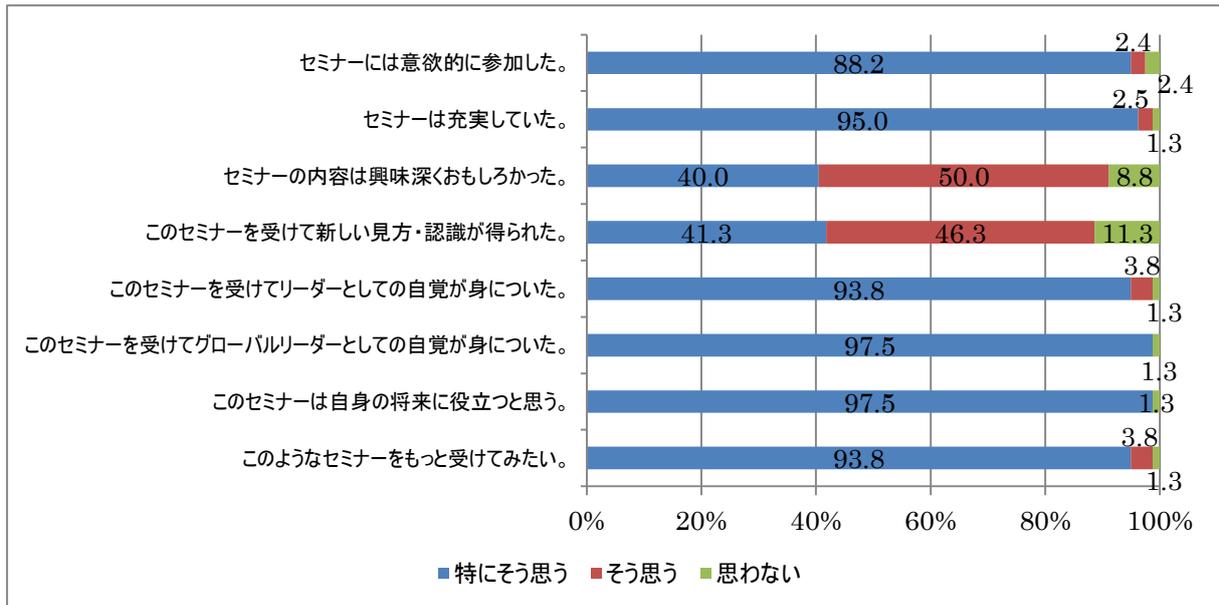
(2) SGH 中間評価後の改善・対応状況

① 全てのプログラムについてアンケートを実施し、効果とその評価を行った。

〈グローバルリーダー育成セミナー〉

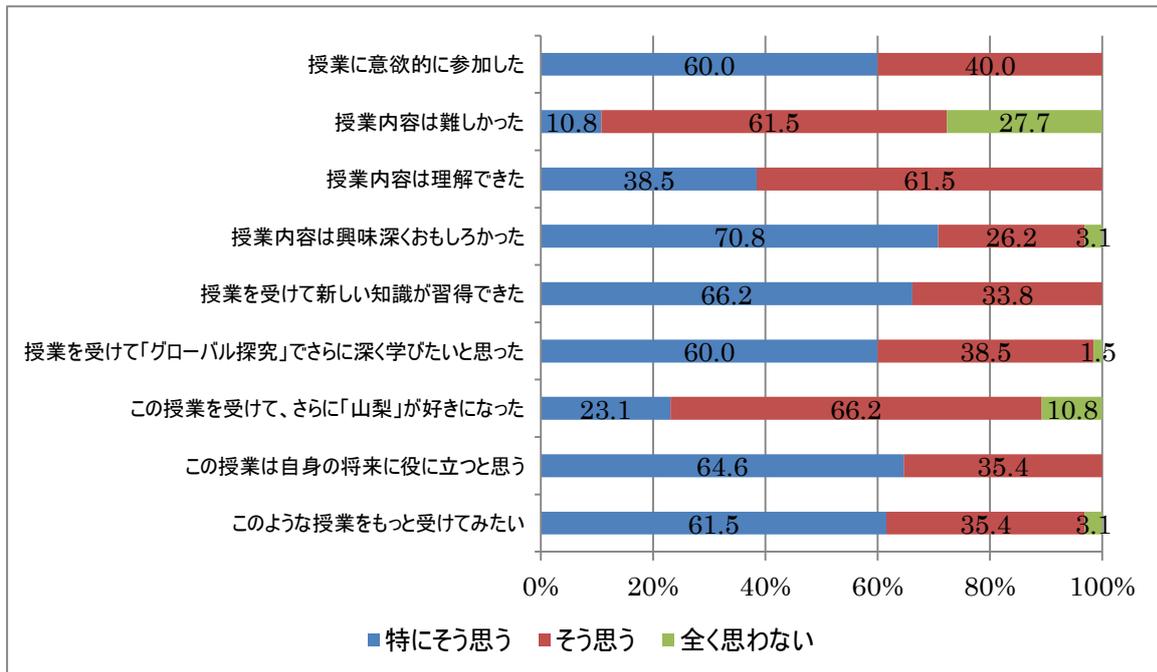


〈英語力向上ワークショップ〉

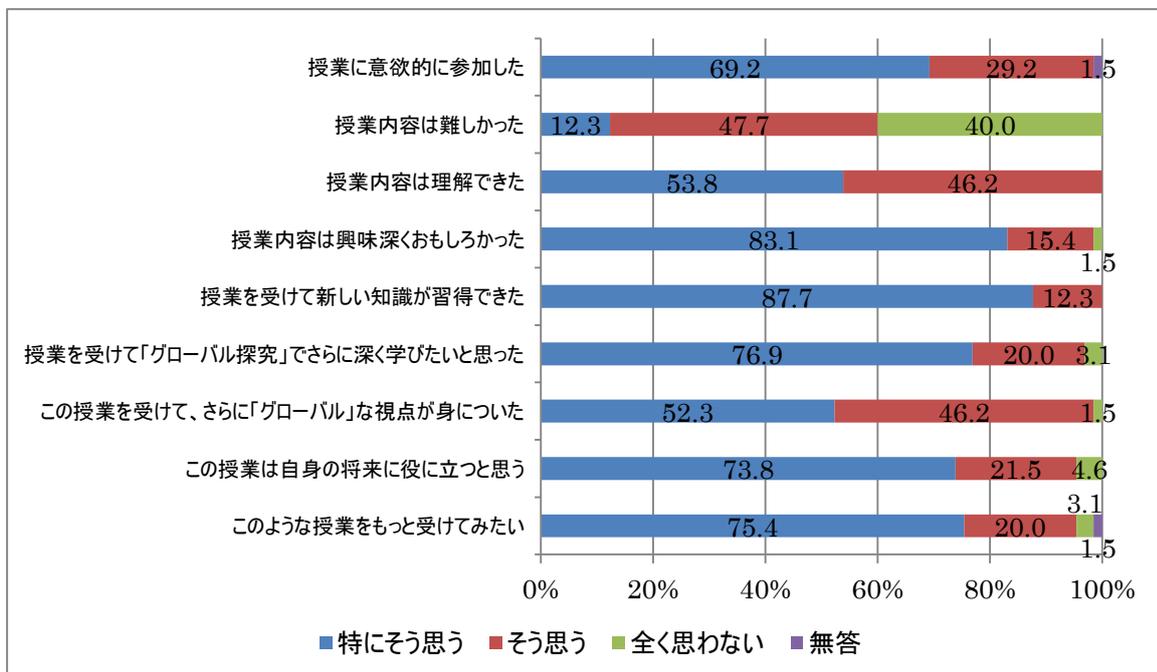


〈高大連携〉

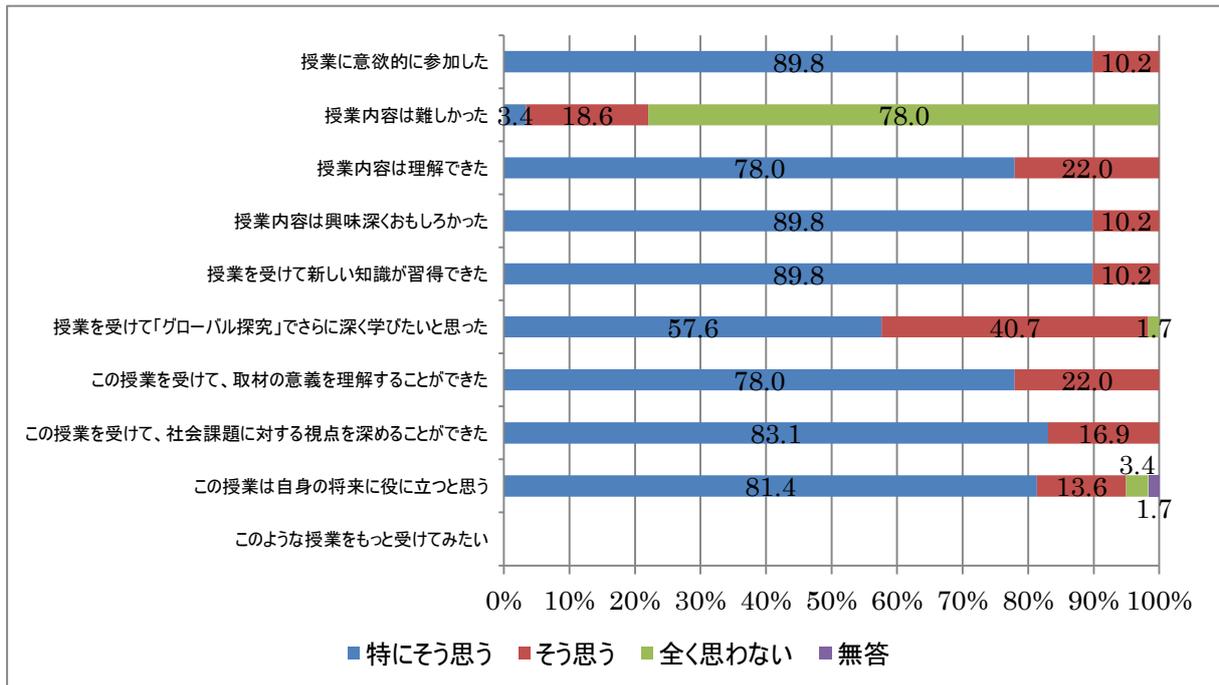
山梨県立大学講座【山梨学】



山梨県立大学講座【山梨の政策課題】

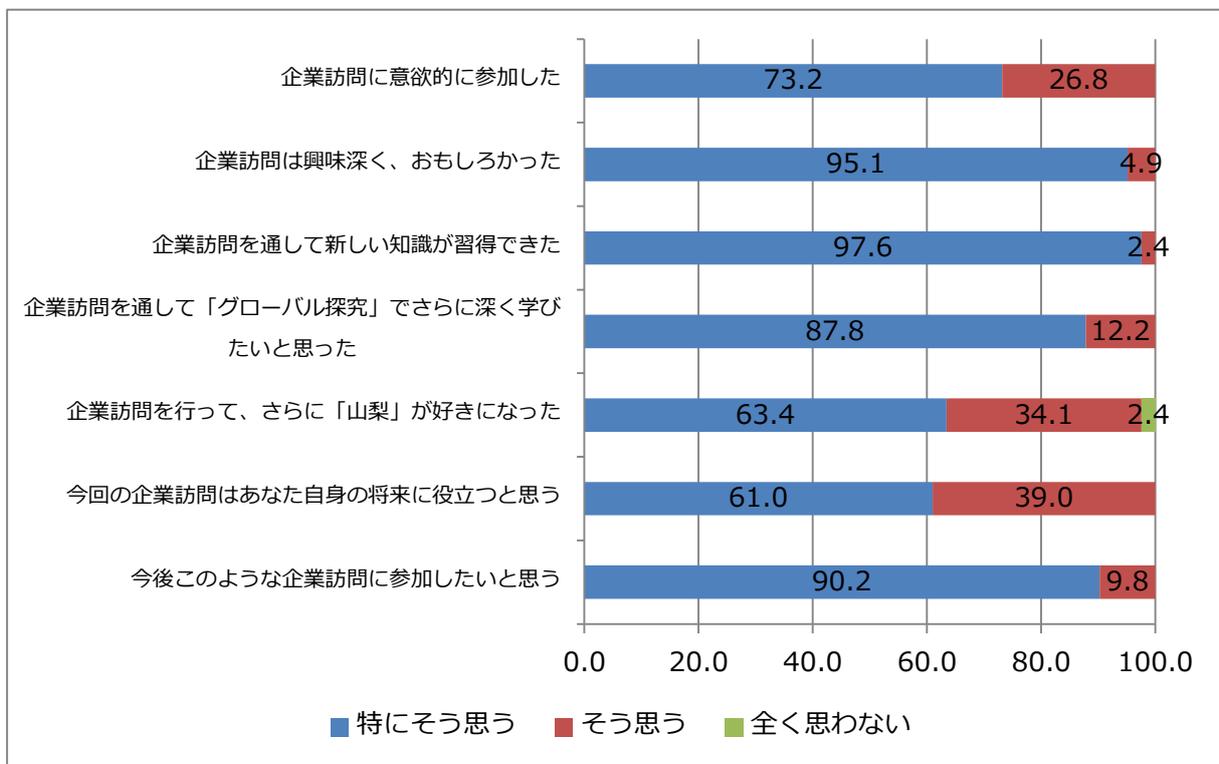


山梨県立大学講座【取材論】

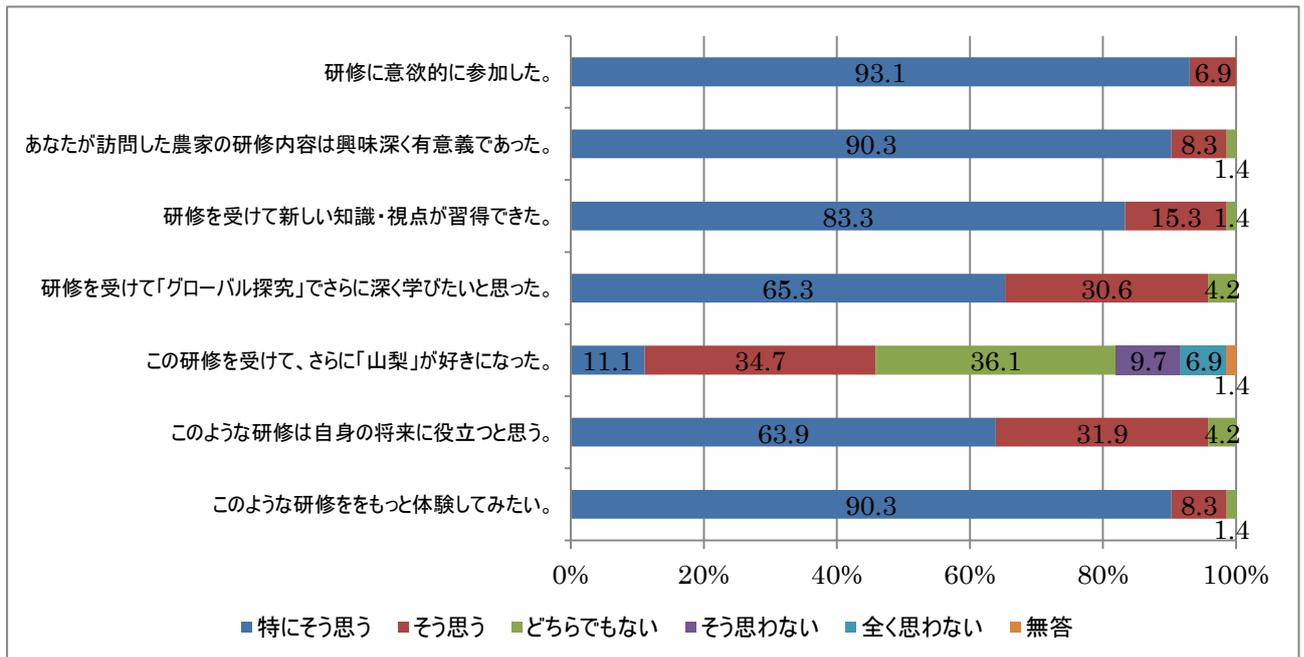


〈企業との連携〉

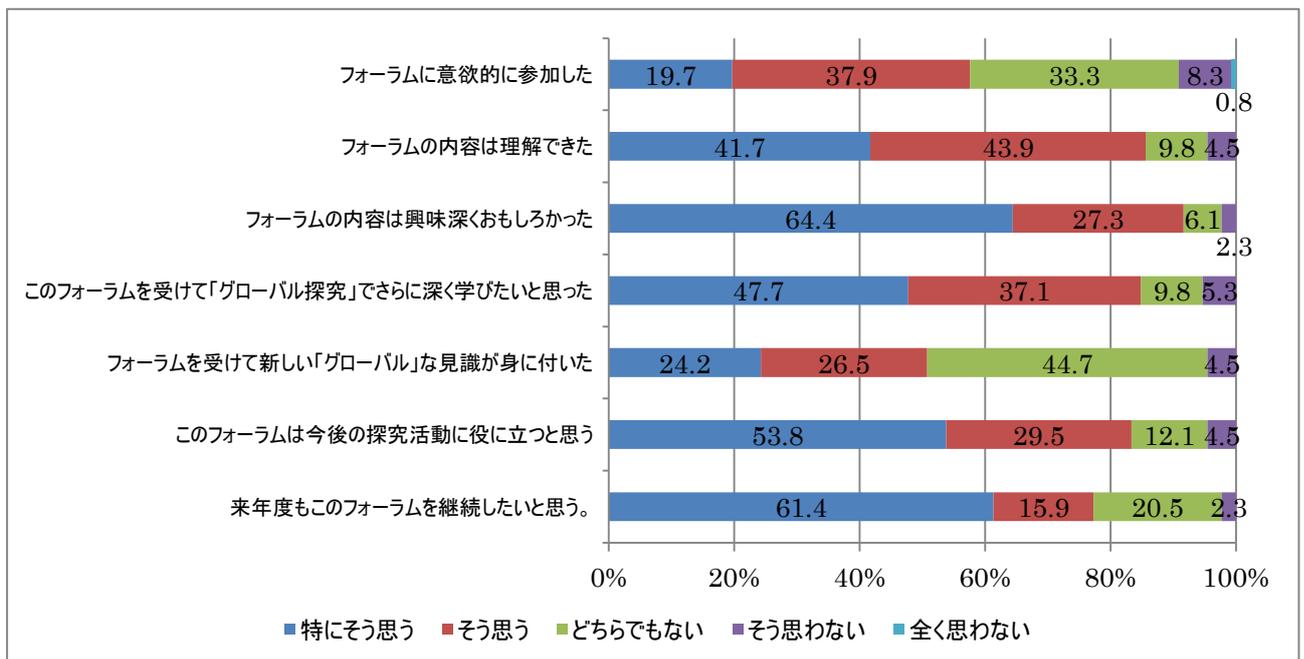
企業訪問



〈長野研修〉



〈山梨ブランドフォーラム〉



【感想】

- ・ファシリテーターの運営、仕切り、まとめが本当に大変良かった。すべての役職の方が参加出来るような議題づくりをしてほしい。
- ・さまざまな職種の立場によって考えることも違って面白かった。知事の話も聞けたので、勉強になった。
- ・自分の意見を大勢の前で発表することはなかなかないため、貴重な体験だった。時間がとても短く感じた。ただ、発表する班が偏ってしまっていた。しかし、全体的にみて、とても良い機会だったと感じた。

- ・職業が意見を述べるのに壁になっているように感じた。わざわざ職業ごとに固めなくても良いと思う。
- ・とても楽しかった。頭を柔らかくして考えることの大切さがよく分かった。
- ・設定を明確にしない方式は、話し合いの初期には不自然さもあったが、自由度の高さが面白くしていたと思う。
- ・発言している人の意見がとても面白く、非常に楽しめた。自分の将来も考えることが出来た。
- ・2050年の社会の在り方が具体的に設定されていなかったため、想像も膨らみ面白かったと思う。しかし一方で、職によって社会の在り方が異なったため上手くかみ合わない部分も目立った。
- ・もうちょっと長い時間でも良いと思う。全員が発言出来るように、グループディスカッションも取り入れてくれるとうれしい。
- ・時々司会が発言し、フォーラムが上手く回るように心がけていた。少し自由度が大きかったため、みな言いたいことを言っている印象があった。

#### 【一般参加者の感想】

- ・大勢の生徒の発表が聞けてとても良かったです。学校の先生や親だけでなく、大人の先輩に意見を出して頂いたり聞いてもらう機会は、子供の耳を育てると思います。私も勉強になりました。来年も来たいです。
- ・意見を言っている班が限られていたように思いました。もっと全ての班が意見を発表し、活発な意見交換ができれば良かったと思います。各班自分の設定を活かした意見が出ていて面白かったです。

#### 〈山梨ブランドサミット〉

平成31年2月8日実施

当日発表会へ参加した方々へのアンケートの感想

#### \* 県内高校関係者

- ・運営内容ともに素晴らしいと感じました。
- ・SGH1年目と比べると、生徒の主体性と、独創的なアイデアは伸びたと実感しました。生徒の皆さん、先生方お疲れ様でした。
- ・とても興味深いもの、将来に期待の持てる研究がたくさんあった。
- ・内容も良く、スクリーンも見やすかった。
- ・内容がわかりやすく、聞きやすかった。
- ・とても内容として興味深いものがあり、今後の自分たちに役立てられると思った。
- ・活発な意見交換があり、応対も素晴らしかった。展望がしっかりしていた。
- ・2年生の質問も英語が Good。
- ・大変勉強になりました。
- ・他の高校の話が聞けて良かった。
- ・もっと自分たちがやったことを時間かけて発表して欲しかった。プレゼンテーションは素晴らしかった。

#### \* SGH 指定校・アソシエイト校関係者

- ・レベルが高くて勉強になりました。ありがとうございました。

- ・どの班も自分たちの仮説を社会に出て実証していて、すごかったです。
- ・英語がうまい。
- ・1年生の時点であれだけ研究が進められ、また、それに伴って実験も行われているのがとても良い。

\*SGH 評価委員

- ・英語のレベルの高さに感心しました。
- ・素晴らしい発表会でした。

\*企業関係者

- ・すべてを見ることはできませんでしたが、レベルの高さに驚きました。鹿をテーマにした発表は2年、3年ともにあり、テーマを受け継いで、卒業しても問題を終わらせないところが、探究であると思いました。
- ・野菜の包装紙について、バナナペーパーがコスト高という質問をした上級生がよい刺激を与えていたと思います。

\*本校生徒保護者

- ・それぞれ素晴らしいプレゼンでした。ありがとうございます。午前中に4つの発表を聴きましたが、もっと多く聴きたいなと思いました。体育館でやるとか・・・難しいと思いますが。
- ・2年生の発表を3コマ見させて頂きました。皆英語での発表でしたが、流れるような英語で、またちょっとつかえて。でも、どの生徒も一生懸命で素晴らしかったです。内容もオリジナリティにあふれていました。
- ・とてもよくまとまっていて、良かったです。
- ・2年生の発表は、とても素晴らしかったです。今後の活躍を期待します。
- ・今後もこの活動はぜひ、続けて行って欲しいです。
- ・全体発表班の発表は、選ばれた班だけあって、素晴らしかった。テーマの選定も良かったと思います。
- ・招聘校学生さんの発表もとても良かったと思います。
- ・スケジュールの見方が複雑で、確認がしづらかったかな・・・と思います。
- ・全体的に話す速さをおとしてもらえると、伝わりやすいと思います。
- ・一高より笛吹高の方が、探究している印象が残りました。おそらく、とても実践的だからでしょう。
- ・見学者にとっては、学園祭より面白いです。論理展開はしっかりさせること。社会問題がテーマの方が良い。
- ・発表も素晴らしかったですが、質疑応答が考えさせられる時間で良かった。司会進行の生徒の英語がすごかった。

以上の結果より、全てのプログラムにおいて生徒の8割以上の生徒が自身の資質・能力に大きな影響力があると評価している。また、毎日の授業においても積極的に発言をする生徒がSGHの活動を行うようになってから増えている。生徒の卒業後の進路に関しても2年次以降実施している課題研究で探究した内容と関係する進路先へ進学している生徒が平成28年度卒21%、平成29年度卒30%、平成30年度卒38%（12月末）と増加している。SGHの活動は生徒の学習意欲や将来への展望に対しても影響力が大きかったといえる

## 8 5年間の研究開発を終えて

### (1) 教育課程の研究開発の状況について

#### ① 学校設定科目「グローバル探究Ⅰ」

「論理的な思考力・判断力」、「実践的なコミュニケーション」の基礎作りを目的として、グループで課題設定をおこなう。グループで国内での実地調査を行い、12月に中間発表会をおこなう。日本における第一次・第二次産業のグローバル展開を、地場産業を通じて生徒の視点を海外へと開かせることで、グローバルな視点を高めるための第一歩とする。また、大学教員による授業や課題設定での助言、さらには企業担当者からの助言を得ることで高校では学ぶことのできないハイレベルな領域への興味関心を高めることができた。

#### ② 学校設定科目「グローバル探究Ⅱ」

1年次の探究を進化させ、国外実地調査を行い、まとめとして12月に実施される研修旅行先の高校または大学において英語を使って発表を行った。1年次のグローバル探究Ⅰでは地場産業を素材として生徒の視点を海外へと開かせた。2年次では1年次の内容を国外での実地調査により補完した。国外での調査を行うことで、自身の課題研究に「何が本当に必要なのか」を体感することができた。

#### ③ 学校設定科目「グローバル探究Ⅲ」

2年次の内容をさらに深め、ポスターと論文にまとめるとともに、企業や行政に向けて提案する。なお、成果を個に還元し、自身のキャリアに活かした。多くの課題研究において好評をいただき、各種コンクール・発表会等において上位入賞を果たした。

### (2) 高大接続の状況について

山梨県立大学において大学集中講義を受講した。1年次には「山梨学」「山梨の政策課題」について受講し、山梨県についてより深く学習することができ、よりハイレベルな課題探究ができ、論理的な思考力・判断力につなげることができた。また、2年次においては「取材論」について受講し、2年次生の課題研究の中心となる実地調査の際に必要な交渉力を高める取り組みができ、グローバルなコミュニケーション能力を身に付けることができた。

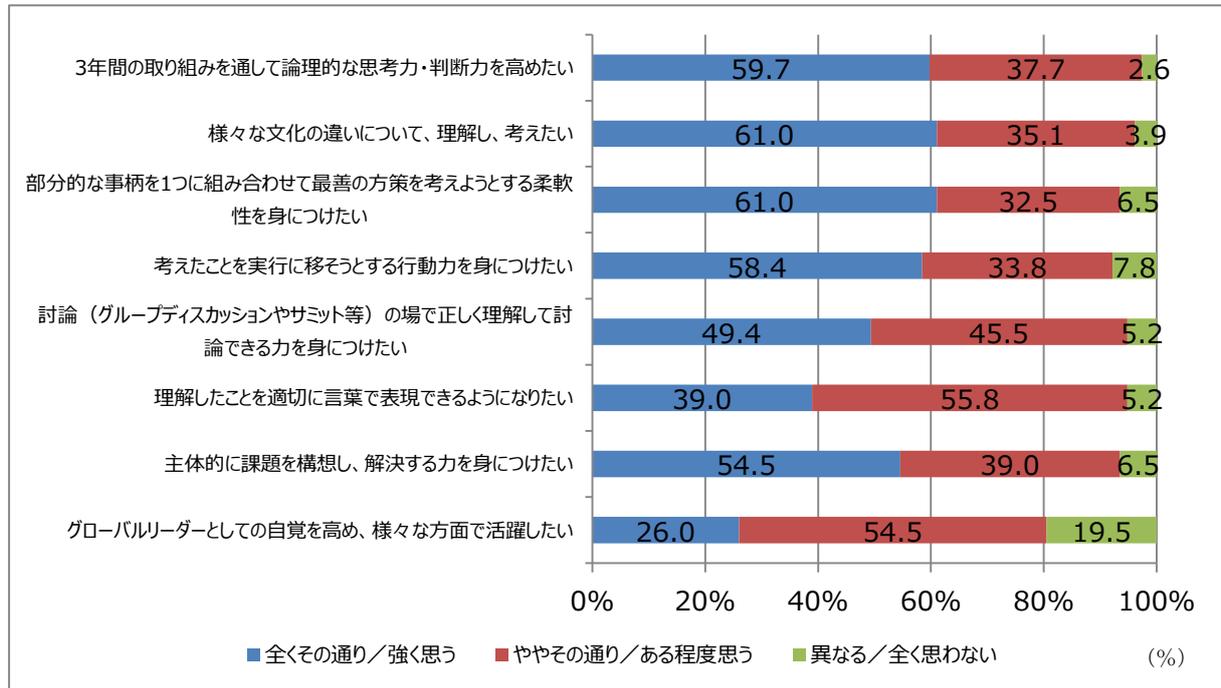
山梨大学においては、生徒の課題探究の際の指導・助言をはじめとし、生徒の課題発表会における評価・講評をいただき、生徒の今後の提案先での実践につなげることができた。

### (3) 生徒の変化について

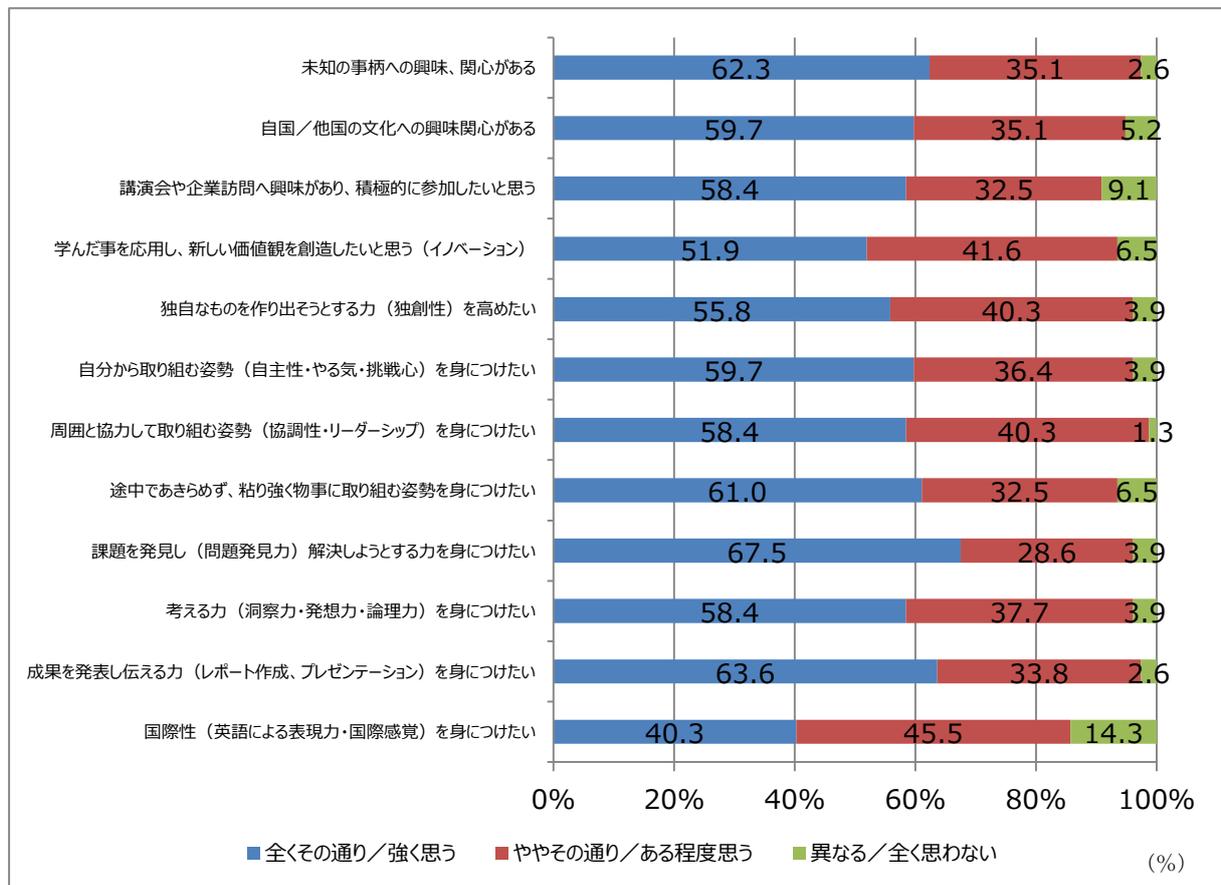
国内実地調査や海外実地調査、全てのSGHの活動後にアンケートを生徒に実施した。また、年度末の評価ルーブリックを用いて評価を行い、検証を行った。指定後から中間評価までの間には、生徒自身に戸惑いが多く、毎時間の活動をこなすだけで精一杯の生徒が多かったが、中間評価後から課題解決能力の把握については、細分化を行い、その到達度を確認するようになった。

- A 課題が何なのかを把握できる。
- B 課題の原因について分析できる。
- C 解決策について考察できる。
- D 考察した解決策をまとめ、最終的な報告として英語で表現できる。

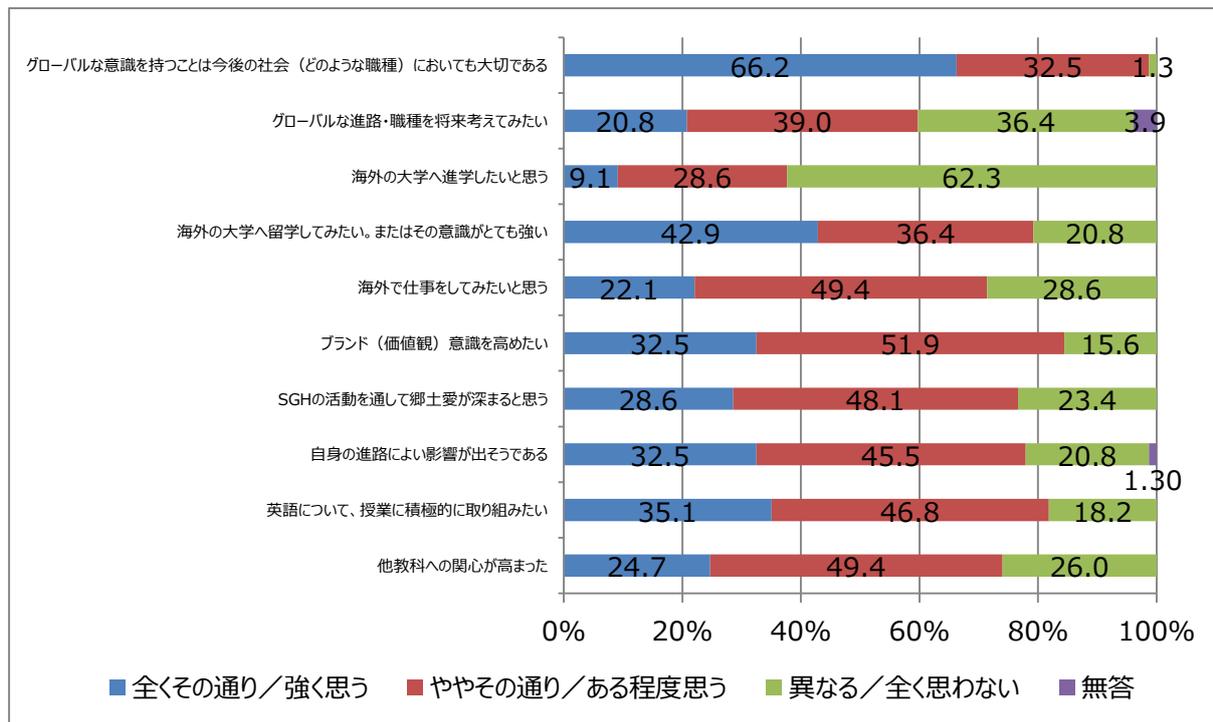
次に生徒に実施したアンケートの結果を示す。  
本校の目標達成を確認する項目



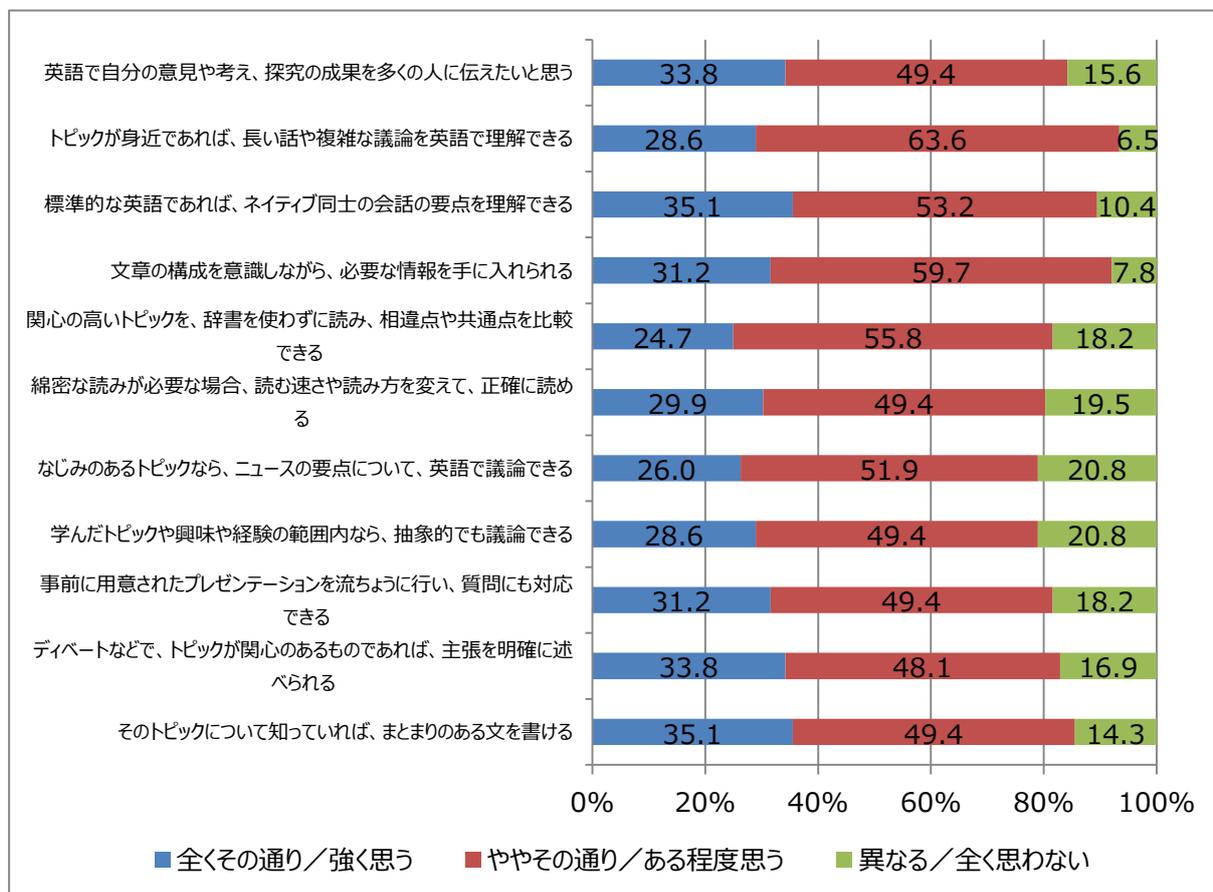
### 今後の社会において目標としたい力の確認



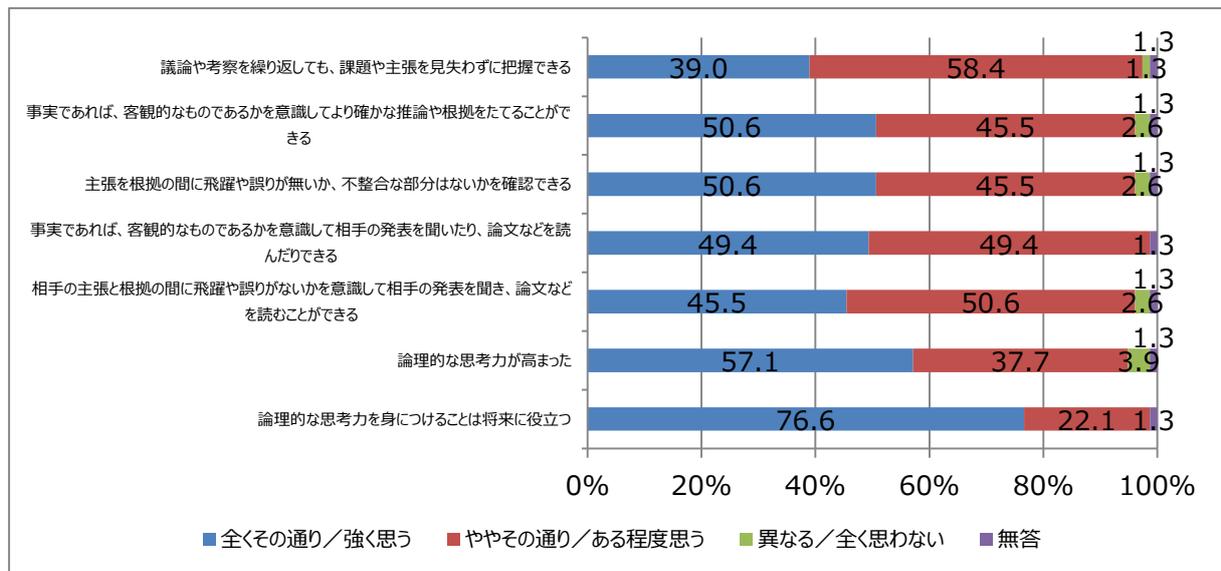
意識・認識・行動の変化に関する項目



英語を活用する能力



## 論理的な思考力



### (4) 教師の変化について

- ・ 探究活動のプロセスが授業改善の取り組みにつながり、教員同士の意識向上へとつながった。
- ・ 「総合的な探究の時間」の先取りができ、探究活動に不安を抱いていた教員の自信へとつながった。
- ・ SGHによる教科指導への波及効果として、単元次第では教科の領域を超えた探究的な内容や活動に発展することが今後期待される。

### (5) 学校における他の要素の変化について

- ・ 探究活動のプロセスが授業改善の取り組みにつながった。
- ・ 生徒の学習意欲の向上につなげることができ、生徒の進路決定への効果があがった。
- ・ 「総合的な探究の時間」の実践モデルとしても他校からも注目されるようになった。
- ・ 教科・科目によっては探究を意識した学習を実現することができ、生徒が意欲的に取り組むようになった。
- ・ 探究のプロセスを経験させ、身に付けさせることで、課題発見力や分析力、批判的思考力等が向上した。
- ・ SDGsの17の目標の視点で社会課題を分析できる生徒が増えてきた。
- ・ SDGsの取り組みが地方創生や地域活性化に貢献することを学び、地元地域への愛着が深まった生徒が増えてきた。
- ・ SGHによる教科学習への波及効果として、教科の領域を超えた探究的な学習に発展することに期待する生徒が増えてきた。
- ・ 保護者の中には、生徒とともに課題研究に取り組んだり、調査研究の連携先を紹介する等、支援してくれる方が年々増えていった。

### (6) 課題や問題点について

- ・ SGHの活動に関する教師集団の意思疎通がまだ充分ではない。
- ・ 思考力、判断力、表現力、主体性、協調性などの資質・能力を問う今後の入試への対応が、

SGH の活動を充実させることでより可能になることを学校全体で共有できるよう更なる努力が必要である。

- SGH が目指す目標とその取組には共感しつつも、教員や生徒・保護者の中には、入試に必要な学力の育成が遅れるとの懸念を持つ人もいる。
- 多くの大学が小論文や面接を重視する AO 入試を拡大させ、課題発見・課題解決力の育成を求めているのは事実であり、その点からも SGH の生徒の優位性は否定できないことを、教員や生徒・保護者の中で共通認識を更に深める必要がある。

(7) 今後の持続可能性について

- PDCA を意識した本校独自の評価ルーブリックをさらに充実させ活用する。
- 社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等、「グローバルリーダーの素養とは何か」について今後も生徒に継続的に認識させ成長を促す。
- SGH をきっかけに高大連携が充実するとともに地元自治体や企業、NPO 等との連携が生まれている。しかし SGH の指定がなくなった後、今までと同様、高大連携や地元自治体や企業、NPO 等との連携が継続できるかについては予算面でも厳しいものがある。
- SGH の枠組みや予算は、国内外とのネットワークやフィールドワークにおいて、その活動を支える重要な要素であり、ワークショップや現地調査、現地との交流といった活動が維持できないとインターネット上での調査研究に留まってしまう可能性がある。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	055-223-1763
氏 名	藤巻 理恵	F A X	055-223-1768
職 名	副主幹・指導主事	e-mail	fujimaki-gcsb@pref.yamanashi.lg.jp